

第2回 公開講座

「延滞」の学習

第2回公開講座が8月17日(土)に草加市文化会館(埼玉県草加市)で行なわれました。

講座の始めに講師の宮城武久(つばき教育研究所の理事長)から「延滞の学習の目的は①視機能の向上 ②視覚認知の高次化 ③記銘 ④保持 ⑤想起 ⑥推測であり、これらの学習を通して考える力の基礎的な力を養うことになる。」という話がありました。

延滞の学習の方法はいろいろありますが、今回の講座では2つの箱の一方におもちゃを入れどちらに入っているかを覚えておき、「ちょうだい」のことばかけで、どちらに入っているかを思い出して、入っている方のフタをとっておもちゃを取り出すというやり方を学習しました。二人一組になって先生と子供の役を交代しながら行ないました。先生役の時は、始めは箱とフタの扱いに慣れず呈示の順番を間違ったり、誤選択肢の箱やフタの撤去が遅れたりなど、四苦八苦していましたが次第にできるようになっていったようです。

宮城からは子供に誤反応をさせてはいけないこと、また、子供の手の出方が速くなかなか課題が成立しなかった場合はどうするのかなど、具体的な子供の様子を想定しながらの説明がありました。指導者がついついやってしまいがちな、教材に目がいきなかなか子供に目が向かないことについて、子供の視線をいつも把握しておくことが大事であり、その為には練習をして学習に臨む必要があるとの話もありました。以下に参加者の方の感想を紹介いたします。



◀ 参加された方の感想 ▶

日々の指導では子供の視線がどこを向いているのかなかなか把握できていなかった。これからは目を見ながら指導できるように努力します。

特別支援学校教諭

「延滞の学習」はとても勉強になりました。ぜひ家で実践してみようと思います。目の使い方が難しい子なのでこの学習を通して目の使い方が上手になればいいと思いました。

保護者

今年度公開講座にご参加いただきありがとうございました。来年度も8月に草加市で行う予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。